

# 「子どもがまんなか」は 幸せな学校と地域づくりの合言葉

こどもがまんなかラボ代表  
前長野県池田町教育長 竹内 延彦

2020年3月2日は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として小中高校等の休校が全国一斉に始まった日。私が教育長を務めていた長野県池田町では休校要請が報道された翌朝に小中3校の校長と町長室で緊急会議を行いました。

会議冒頭「首相は週明け2日からの休校を要請していますが可能でしょうか」と校長達に尋ねたところ、3人は躊躇なく「無理です」と答えました。私は教育長就任当初から子ども達の身近な存在である現場の先生方の判断を信頼し尊重したいと考えていたので「何日遅らせれば大丈夫ですか」と続けて尋ね、「2日あれば」との返事に「では3月4日からの休校でよろしいでしょうか」と町長の了解を取り、私自身も迷うことなく決断できました。

全国9割以上の学校が2日から休校に入中、2日間遅らせた池田町の決断はその後の学校運営に大きな価値をもたらしました。先生と子どもや保護者が落ち着いて準備する時間ができただけでなく、大変なコロナ対応における現場と教育委員会との強い信頼の土台となり、先生方は子ども達の安心安全を守りつつも「ピンチをチャンスに変えよう」と常に前向きに取り組み、子ども達の意見を積極的に取り入れながら少しでも子ども達が楽しめる環境を創ろうと主体的に考え行動してくれました。

池田町では新型コロナ発生前年の2019年に「子どもがまんなか未来を拓くひとづくり」を基本理念とする第2次教育大綱（※）を策定しました。教育大綱は子どもと地域の未来に関わる大切なものですから、子どもから大人まで多くの人々と幅広い対話を重ねました。そして「保育も教育も主人公は子ども達だから、子どもが読んで理解し、覚えることができる大綱にしよう」と、小中の子ども達とも対話した結果「子どもがまんなか」というシンプルですが奥深い理念を見出すことができました。

「子どもがまんなか」は全ての大人が立場を超えて共有できるビジョンです。大綱には子どもの育ちと学びを0歳から15歳まで切れ目なくつなげる「保小中15年プラン」という基本目標も掲げ、子どもの様子を保小中の先生が全員で真剣に語り合う研修も毎年開催しています。基本理念は地域住民にも浸透し「地域の子どもは地域で育てよう」と池田町全体で小中3校を包み込む一つのコミュニティスクールを目指しています。

子どもは社会の未来であり、幸せな子ども時代が幸せな大人をつくります。子ども一人ひとりが幸せに成長していく情景を大人達が共有できれば、行政と学校、学校と保護者や地域との信頼に基づいた連携もできるはずです。人間誰でも他者からの信頼が安心感や自信となり様々な意欲が高まります。行政は教職員を信頼して学校を任せ、先生と保護者は子どもを信じ子どもをあてにしながら一緒に活動を創ることで、子どもの表情は生き生きと子ども自分らしく生きるために自由の大切さ学びます。子どもがまんなかは、子どもも大人も楽しい学校と地域が日本中に誕生し、幸せの連鎖が広がる合言葉です。

※池田町第2次教育大綱

<https://www.ikedamachi.net/cmsfiles/contents/0000000/535/taikou02.pdf>

